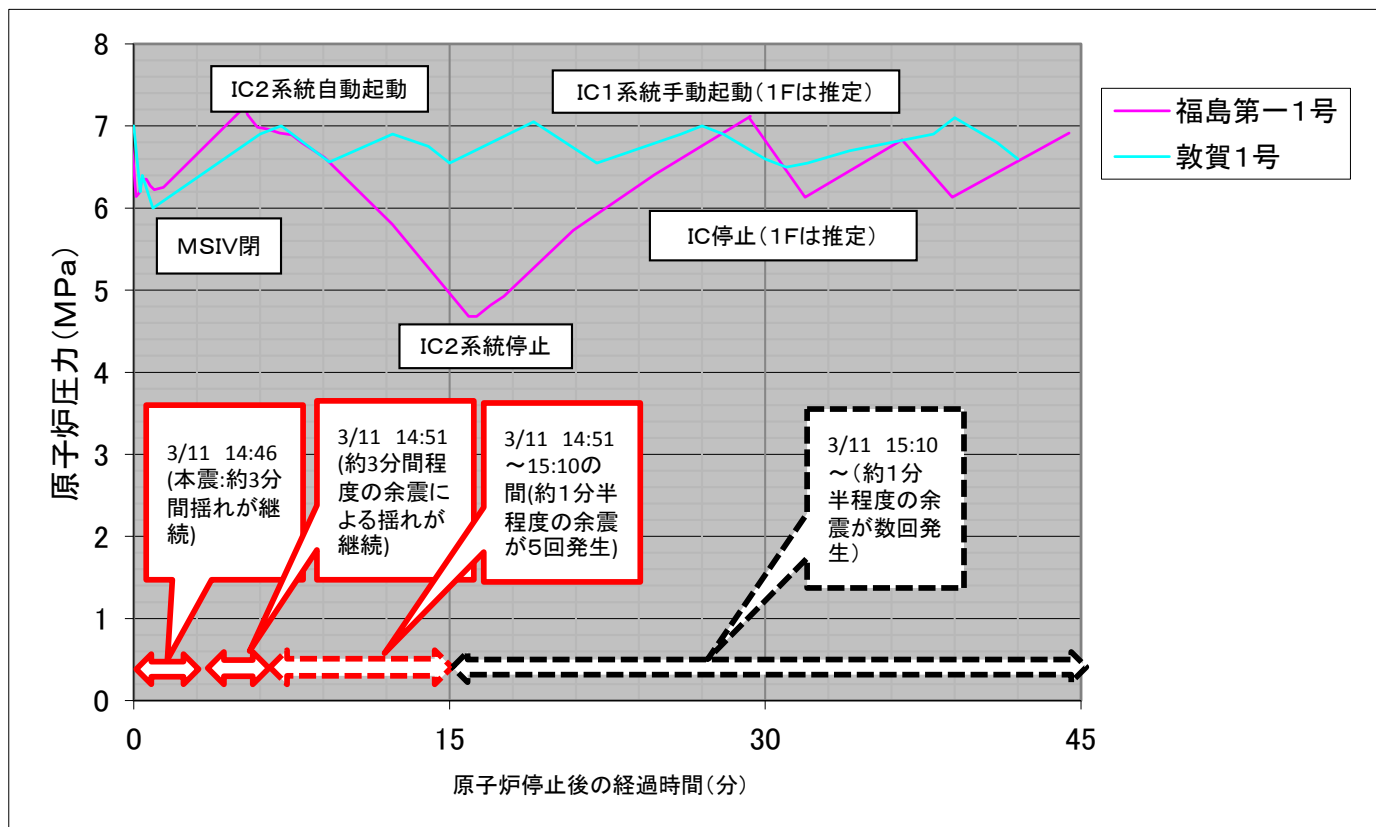


[図 i -27]

福島第一原子力発電所1号機における非常用復水器(IC)作動時の原子炉圧力の変化

- 1号機においては、非常用復水器(IC)が自動起動し、原子炉圧力は運転員が停止操作を行うまでに手順書に規定されている圧力(約6.3MPa)よりも低下。
- 同じICが設置されている敦賀1号機の状況とは圧力調整の幅に違いはあるものの、運転員の証言によると余震による影響のため手動により停止操作ができなかったとされている。さらに、JNESの解析評価の結果も踏まえると、大規模な配管破断は生じておらず、圧力調整は、IC戻り配管に設置されている弁の継続的な開閉で実施したものと考えられる。



○福島第一1号機においては、非常用復水器(IC)が自動起動し、地震の揺れが収まり運転員が停止操作を行うまでの間に原子炉圧力は約4.7MPaまで低下。その後は6~7MPaの間で圧力調整されていたものと考えられる。

○敦賀1号機では、自動起動に至る前にIC1システムを手動で起動し、手順書(約6.4~6.9MPaに維持)に従って原子炉圧力を調整している。